（別紙様式４）

平成27年5月1日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京医療専門学校	昭和51年9月10日	齊藤　秀樹	〒160-0008 東京都新宿区三栄町３番地 (電話)03-3341-4043
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　呉竹学園	昭和31年10月17日	理事長　坂本　歩	〒160-0008 東京都新宿区三栄町３番地 (電話)03-3341-4043

目的	はり師，きゆう師，あん摩マッサージ指圧師，柔道整復師及び鍼灸ﾏｯｻｰｼﾞの教員を養成するにあたり、それぞれに必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為の人材を育成することを目的とする。

分野	課程名	学科名	修業年限（昼、夜別）	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	柔道整復科（夜間特修コース）	３年（夜）	２４００単位時間（１０７単位）	文部科学省告示第14号 平成15年2月19日	―

教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	１３９０単位時間（７３単位）	１４０単位時間（７単位）	０単位時間（０単位）	１８０単位時間（４単位）	６９０単位時間（２３単位）

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
９０人	３３人	８人	３３人	４１人

学期制度	■１学期：４月１日～７月31日 ■２学期：８月１日～11月30日 ■３学期：12月１日～３月31日	成績評価	■成績表（有・無） ■成績評価の基準・方法について 100点満点換算で60点以上を合格とする
長期休み	■学年始め： ■夏　　季：8月10日～8月25日 ■冬　　季：12月25日～1月5日 ■学 年 末：3月25日～3月31日	卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定
生徒指導	■クラス担任制（有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 担任、授業担当教員又は校長より口頭又は文書を以て厳重警告される。	課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動（有・無）
主な就職先	■主な就職先、業界 治療院・病院 ■就職率　８７％ ■卒業者に占める就職者の割合９１％ (平成２６年度卒業者に関する平成２６年４月時点の情報)	主な資格・検定	柔道整復師 国家試験受験資格
中途退学の現状	■中途退学者　０名　■中退率　０．０％ 平成２６年　４月　１日在学者　３８名（平成２６年　４月入学者を含む） 平成２７年　３月３１日在学者　３８名（平成２７年　３月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 経済的理由・成績不良 ■中退防止のための取組 担任制による個別相談の早期実施		
ホームページ	URL：www.kuretake.ac.jp		

１．教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）
学校は、より実践的な職業教育の質を確保するため委員会を組織し、その意見を聴取するなど連携して教育課程の編成を行う。

（教育課程編成委員会等の全委員名簿）

平成２７年５月１日現在

名前	所属
岩元　健朗	東京都鍼灸師会　副会長（岩元鍼灸接骨院　院長）
佐藤　圭子	佐藤永福治療院　院長
斉藤　隆夫	斉藤鍼温灸院　院長
宮原 一浩	宮原鍼療所　院長
植松 秀彰	牧田中医クリニック　中医鍼灸部　部長
相澤 良	日本伝統医学研修センター所長
渡邊 佳子	銀座ナチュラルタイム　総院長
篠 弘樹	東京都柔道整復師会　学術部員（篠鍼灸整骨院　院長）
須賀 一成	須賀道場　勤務
松岡 慶樹	松岡接骨院　院長
齊藤 秀樹	東京医療専門学校　校長
村上 哲二	鍼灸マッサージ科/鍼灸科（科長）
船水 隆広	鍼灸マッサージ科/鍼灸科（科長補佐）
林 信治	鍼灸マッサージ科/鍼灸科（実技担当）
杉山 直人	柔道整復科（科長）
早川 幸秀	柔道整復科（実技担当）
中村 真通	鍼灸マッサージ教員養成科（科長）
八亀 真由美	鍼灸マッサージ教員養成科（実技担当）

（開催日時）
第１回平成２７年４月　２日１３：００～１４：００
第２回平成２７年９月１２日１４：００～１５：００
第３回平成２８年３月（開催予定）

２．主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）
企業等との連携は、企業等の持つ専門性・技術・経験等を活用し、より実践的な教育効果を得るために行い、関連する業界等の社会のニーズを捉え、卒前教育として基礎的な知識を得ることを目的として行う。
また、教育課程の段階的修得に合わせて実施することにより、その教育成果を補完することを目的として行い、医療人としての人材育成を目的として行う。

科目名	科目概要	連携企業等
包帯固定法	様々な固定材料を使用し的確な固定し、診断の補助手段としての計測法、徒手的検査技術も理解、さらに運動療法、理学療法についても理解する。	篠鍼灸整骨院
柔道Ⅱ	形を用いて柔道の理合いを追求する。 攻撃および防御の練習により技の理合いを理解できるようにする。	松岡接骨院

３．教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）
学校は、教職員の専門性の向上と人材育成を目的として計画的に研修を受講させるほか、教職員が自己啓発により自ら学ぶことを奨励する。

４．学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の名簿）

平成２７年５月１日現在

名前	所属
髙田　常雄	東京都鍼灸師会　会長
辰野　正和	東京都柔道整復師会　参与
玉井　清志	保護者（鍼灸マッサージ科・鍼灸科）
関 研二	保護者（柔道整復科）
荻野 三恵子	卒業生（鍼灸マッサージ科・鍼灸科）
狩野 和利	卒業生（柔道整復科）

（学校関係者評価結果の公表方法）

URL：www.kuretake.ac.jp

５．情報提供

（情報提供の方法）

URL：www.kuretake.ac.jp

授業科目の概要

医療専門課程　柔道整復科（夜間特修コース）　平成２６年度											
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			総合基礎Ⅰ	科学的・理論的思考力を育てると同時に、人間性を高め、自主体的な判断力を培い、生命倫理や人権とその尊厳について理解を深め、国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。	1通・2通	210	14	○		
○			総合基礎Ⅱ					○		
○			総合基礎Ⅲ					○		
○			人体構造学Ⅰ	解剖学総論で学生に解剖学への興味と学ぶ必要性を提示する。 各論は神経系・感覚器系・循環器系が主体となるが、形態と作用を一括して理解させる。 ことに、初学者に解剖学への興味と学ぶ必要性を明確に提示する。	1通	60	3	○		
○			人体構造学Ⅱ	内臓系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の構造を系統的に理解できる。 内臓学が主体となるが形態と機能を結びつけて解剖学を動的に理解させる。	2通	60	3	○		
○			人体機能学Ⅰ	個体の最小構成単位である細胞の営みの仕組みが解る。神経系においては各組織や器官の活動を全体としてまとまりのある働きにするよう調節する組織であることから、機能別に個々の神経がどのように協調と統合を行っているのかが理解できる。運動機能を有する筋肉について構造と収縮の仕組みが理解できる。血液では血液構成成分とその機能が、循環系ではその機能とその調節機序が理解できる。	1通	60	3	○		
○			人体機能学Ⅱ	循環系ではその機能とその調節機序が理解できる。呼吸器系では呼吸運動の仕組みとそれの調節機序を理解する。消化器系では各部位の機能と調節機序および吸収の機序が解る。代謝ではその仕組みが、体温ではその産熱と放熱の仕組みおよびそれの調節機序が解る。排泄系では腎での尿生成と排泄の仕組み等が理解できる。内分泌系はホルモンという化学物質を介して完成された個体の形成と生体内の恒常性の維持に関わっていることから、各ホルモンの具体的な働きが理解できる。生殖では性分化の仕組みならびに生殖器の変化と性ホルモンとの関係が理解できる。またカルシウム代謝とそれに関わっている数種類の調節ホルモンとの関係が理解できる。	2通	60	3	○		
○			運動器の 機能と発達	関節運動を行うにあたり、力学的要素が各々の関節でどのような違いを持っているのかを理解できる。解剖学、生理学で学んだ運動器の知識を、復習を含めて包括的に理解できる。 姿勢の維持・歩行をするための科学的な解析方法を知る。また出生から成人に発達する際の神経機構のメカニズムを理解する。	3通	20	1		○	
○			疾病の成り立ちⅠ	疾病を起こす因子と疾病過程を系統立てて理解できる。	2通	40	2	○		
○			疾病の成り立ちⅡ	疾病を起こす因子と疾病過程を系統立てて理解できる。	3通	20	1		○	
○			運動器診断治療学	柔道整復は外傷による運動器損傷を取り扱うことを業務としている。これに対して広く運動器疾患を取り扱うのが整形外科学である。本科目では外傷以外の運動器疾患の診断と治療を中心とし学習、その類似性と相違について理解できる。併せて、外傷による運動器損傷についての整形外科的治療法を理解できることも目標とする。	2通	40	2	○		
○			内科診断治療学	医療担当者として日常遭遇しやすい内科領域の疾患の臨床症状を中心に理解できる。 医療面接・視診・触診・打診・聴診及び身体計測法等について所見の取り方を知り診療録に記載ができる。 代表的な疾患の主症状を知り、臨床検査の結果から種々の疾患の鑑別を行い説明ができる。また柔道整復の適応症であるかどうかの鑑別ができる。	2通	60	3	○		

授業科目の概要

医療専門課程　柔道整復科（夜間特修コース）　平成２６年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			外科診断治療学	損傷、外傷、炎症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、滅菌・消毒、手術・麻酔、出血・止血、蘇生法などの外科的な基本事項が理解できる。 日常業務において遭遇しやすい外科領域の疾患および柔道整復師には禁忌症となっている創傷などの臨床症状および経過、治療法などが理解できる。	2通	60	3	○		
○			人体機能回復論	人体機能・回復論の機能の部分では運動学での姿勢保持及び歩行に関与する筋等の組織の働きを理解し、異常姿勢・異常歩行が生じる組織異常との関連が理解できる。回復論の部分ではリハビリテーションの概念、障害の成因、評価法、運動器のリハビリテーションを中心としての障害からの回復過程と治療用機器及び使用法、それらを使った治療法が理解できる。	2通	40	2	○		
○			健康の意義	柔道整復師として、日常業務を安全かつ衛生的に遂行する上での規準・規定を理解する。 日常生活で健康を維持、増進するために意義のある事項を知る。	2通	60	3	○		
○			関係法規	柔道整復師に関係する法律を理解し、適切な柔道整復業務ができる。 柔道整復との連携が必要な医療関係職種に関する法律も併せて理解し、併せて業務分担・境界域を熟知し業務の円滑な運営に資する人格を形成する。	3通	40	2	○		
○			柔道Ⅰ	柔道の基本的動作を体得する。 柔道を通して精神・身体の修養と鍛錬、世に補益することを目標とする。	1通	60	2			○
○			柔道Ⅱ	形を用いて柔道の理合いを追求する。 攻撃および防御の練習により技の理合いを理解できるようにする。	3通	60	2			○
○			柔道整復 運動器基礎	柔道整復に必要な四肢の骨、関節、筋の構造を理解し、各々の関節の運動と、その運動に関与する筋が解る。また四肢を支配する末梢神経の支配領域が理解できる。 正常の機能を失った場合、どのような症状が出るか考えられる。	1通	80	4	○		
○			骨損傷論基礎	骨の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。 骨折の発生機序と損傷形態との関係を解析する。骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を学習する。	1通	60	3	○		
○			関節損傷論基礎	関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。 脱臼の発生機序と損傷形態・捻挫の発生機序と損傷形態との関係を解析する。	1通	60	3	○		
○			上肢の損傷・ 治療論Ⅰ	上肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解する。それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。骨折症状を理解し診断ができるようにする。起こりうる合併症を知りその対策と治療法について理解を深める。 上肢の各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について理解を深める。また各関節損傷の分類方法を適切に理解し、受傷機転や発生頻度の仕組みと部位による相違、ならびに頻度の高い損傷に関して、従来より用いられている整復法や固定法の合理性を理解する。そして損傷と同時に発生しうる合併症・続発症ならびに後遺症に関して因果関係を理解する。	2通	60	3	○		
○			上肢の損傷・ 治療論Ⅱ	上肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解する。それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。骨折症状を理解し診断ができるようにする。起こりうる合併症を知りその対策と治療法について理解を深める。 上肢の各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について理解を深める。また各関節損傷の分類方法を適切に理解し、受傷機転や発生頻度の仕組みと部位による相違、ならびに頻度の高い損傷に関して、従来より用いられている整復法や固定法の合理性を理解する。そして損傷と同時に発生しうる合併症・続発症ならびに後遺症に関して因果関係を理解する。	3通	60	3	○		

授業科目の概要

医療専門課程　柔道整復科（夜間特修コース）　平成２６年度											
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			下肢の損傷・治療論Ⅰ	下肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解する。それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。骨折症状を理解し診断ができるようにする。起こりうる合併症を知りその対策と治療法について理解を深める。 下肢の各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について理解を深める。また各関節損傷の分類方法を適切に理解し、受傷機転や発生頻度の仕組みと部位による相違、ならびに頻度の高い損傷に関して、従来より用いられている整復法や固定法の合理性を理解する。そして損傷と同時に発生しうる合併症・続発症ならびに後遺症に関して因果関係を理解する。	2通	40	2	○		
○			下肢の損傷・治療論Ⅱ	下肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解する。それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。骨折症状を理解し診断ができるようにする。起こりうる合併症を知りその対策と治療法について理解を深める。 下肢の各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について理解を深める。また各関節損傷の分類方法を適切に理解し、受傷機転や発生頻度の仕組みと部位による相違、ならびに頻度の高い損傷に関して、従来より用いられている整復法や固定法の合理性を理解する。そして損傷と同時に発生しうる合併症・続発症ならびに後遺症に関して因果関係を理解する。	3通	60	3	○		
○			体幹の損傷・治療論	頭部骨折の重大性を理解し、適切な応急処置および対応が出来るようにする。 発生機序と臨床所見から肋骨骨折・脊椎骨折の存在を診断でき、適切な対応ができる能力を養う。重大な合併症としての脊髄損傷についての理解を深める。体幹および四肢の軟部損傷についての発生メカニズム、症状、合併症などを知る。関連整形外科疾患との鑑別ができる。	2通	40	2	○		
○			臨床診断論Ⅰ（運動器系）	運動器に発生する整形外科疾患で、柔道整復で扱える急性外傷以外でおきる各部位の疾患を理解し、症状や特徴を把握する。 対象疾患でない疾患を鑑別除外できるようにする。	3通	40	2	○		
○			臨床診断論Ⅱ（外傷系）	臨床上必要な外傷の合併症、感染症等の鑑別が理解できるようにする。外傷部の感染症の種類、症状の特徴を理解できる。頭部外傷の症状やその対応法を理解できる。	3通	40	2	○		
○			臨床診断論Ⅲ（内臓系）	臨床上遭遇する内科系の症状とその対応法が理解できる。	3通	40	2	○		
○			柔整と機能回復論	実際の臨床の中でよく使われる物理療法の生体への影響を熟知している。 各々の物理療法の適応疾患を病態と治効理論を含めて理解できる。	3通	20	1	○		
○			柔道整復総合論Ⅰ（構造系）	運動器の構造を元に、それぞれの部位の損傷を考え、機能障害を連想できる。	3通	40	2		○	
○			柔道整復総合論Ⅱ（機能系）	運動器の機能を元に、臨床上行われる検査法・臨床上診られる症状を理解できる。	3通	40	2		○	
○			柔道整復総合論Ⅲ（保健医療系）	柔道整復師を主体として、周囲の医療環境の要素にどの様なものがあるか挙げられる。 医療の中で倫理上問題となっている事象が挙げられる。	3通	20	1		○	
○			包帯固定法	柔道整復にとって患部を固定することは最も重要な施術技術である。固定材料としては包帯・副木・厚紙副子・金属副子・絆創膏・ギプス・熱可塑性材料（プライトンなど）・プラスチックキャストなど様々ある。これらを使用し的確な固定ができることは柔道整復師にとって必須である。また、診断の補助手段としての計測法、徒手的検査技術も理解、使用できる。さらに運動療法、理学療法についても理解する。	1通	90	3			○

授業科目の概要

医療専門課程　柔道整復科（夜間特修コース）　平成２６年度											
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復 治療法基礎	柔道整復にとって患部を固定することは最も重要な施術技術である。固定材料としては包帯・副木・厚紙副子・金属副子・絆創膏・ギプス・熱可塑性材料（プライトンなど）・プラスチックキャストなど様々ある。これらを使用し的確な固定ができることは柔道整復師にとって必須である。また、診断の補助手段としての計測法、徒手的検査技術も理解、使用できる。さらに運動療法、理学療法についても理解する。	1通	90	3			○
○			上肢の応用 治療法Ⅰ	上肢の各骨部ならびに各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について更に理解を深める。特に頻度の高い損傷について、履修済みの科目の知識から受傷機転の仕組みや、従来より用いられている整復法や固定法に関しても、その合理性を検証する能力を培う。施術による弊害としての続発症ならびに後遺症に関しても理解を深める。	2通	90	3			○
○			上肢の応用 治療法Ⅱ	上肢の各骨部ならびに各関節損傷に対する具体的な整復法や固定法に関して、その有用性を充分に理解しながらも、新たな施術方式の可能性を模索する能力を培う。また施術による弊害としての続発症ならびに後遺症に関しても充分に理解しながら、更に合理的な施術方式を探求する。	3通	90	3			○
○			下肢の応用 治療法Ⅰ	下肢の各骨部ならびに各関節での具体的な損傷過程や損傷形態について更に理解を深める。特に頻度の高い損傷について、履修済みの科目の知識から受傷機転や、従来より用いられている整復法や固定法に関しても、その合理性を検証する能力を培う。施術による弊害としての続発症ならびに後遺症に関しても理解を深める。	2通	90	3			○
○			下肢の応用 治療法Ⅱ	下肢の各骨部ならびに各関節損傷に対する具体的な整復法や固定法に関して、その有用性を充分に理解しながらも、新たな施術方式の可能性を模索する能力を培う。また施術による弊害としての続発症ならびに後遺症に関しても充分に理解しながら、更に合理的な施術方式を探求する。	3通	90	3			○
○			体幹の応用治療法	頭部骨折の重大性を理解し、適切な応急処置および対応が出来るようにする。 発生機序と臨床所見から肋骨骨折・脊椎骨折の存在を診断でき、適切な対応ができる能力を養う。重大な合併症としての脊髄損傷についての理解を深める。体幹および四肢の軟部損傷についての発生メカニズム、症状、合併症などを知る。関連する整形外科的疾患との鑑別ができる。体幹の代表的な損傷に対しそれぞれの治療法を理解し適切な固定および後療法を選択し実施することができる。	3通	30	1			○
○			臨床実習Ⅰ	柔道整復にとって患部を固定することは最も重要な施術技術である。固定材料としては包帯・副木・厚紙副子・金属副子・絆創膏・ギプス・熱可塑性材料（プライトンなど）・プラスチックキャストなど様々ある。これらを使用し的確な固定ができることは柔道整復師にとって必須である。また、診断の補助手段としての計測法、徒手的検査技術も理解、使用できる。さらに運動療法、理学療法についても理解する。	2通	90	2			○
○			臨床実習Ⅱ	臨床現場で患者の状態に即した対応ができる。柔道整復の臨床現場で必要な知識及び技能を修得する。	3通	90	2			○
合計				４２科目		２４００単位時間（１０７単位）				